

〔都市緑化用植物の利用技術開発〕
ヤブラン・ジャノヒゲ品種における植栽後生育と観賞性評価

田旗裕也・渋谷圭助・佐藤澄仁^a
(都市環境科)^a 現小笠原亜熱帯農業センター

【要 約】ヤブラン・ジャノヒゲ類の品種について、植栽後2ヵ年間の観賞性評価を、遮光条件を交えて行った。ヤブラン‘ビックブルー’は、遮光・無遮光いずれの条件でも観賞期間が長く、定植後被覆面積の拡大が顕著であった。

【目 的】

ヤブラン・ジャノヒゲは、国内産ペレニアル類であり、省管理なグランドカバープランツとして利用されている。近年は、従来から利用されている緑葉種以外に、斑入葉や花が咲くものなど、新しい園芸品種が発表されており、緑化樹種の多様性を求める生産・利用者の双方から期待を集めている。一方、都市部での植栽条件には、様々な温熱環境が想定される。本試験では、ヤブラン・ジャノヒゲの園芸品種について、都市環境の一要因である遮光条件を交えながら、植栽後の生育と観賞性を評価する。

【方 法】

ヤブラン属の園芸品種10種とジャノヒゲ属の園芸品種6種を供試した。定植日は2004年6月2日で、表層洪積土を客土したセンター内圃場に、9cmポット苗3鉢を鉢間隔30cmで三角形に定植した。無遮光条件下での評価を行うため、実験区として、遮光・無遮光区の2区を設けた。遮光区は、遮光率58%の黒寒冷紗を2005年4月5日に植物体上部へトンネル状に被覆した。調査は、7～10日間隔で目視観察による観賞性評価を行い、評点ごとの積算週数を算出した。なお、観賞期間は、評点0～+1の週数計とし、調査期間である2005年4月5日から翌年10月31日まで計83週に対する比率で表した。また、植栽後生育として、被覆面積の伸縮を把握するため、2005年5月17日、11月14日および2006年7月3日に、植栽した区画の長径を調査した。

【成果の概要】

- 1) 被覆面の長径について、ヤブラン‘ビックブルー、ライラックビューティー’ならびにコヤブラン‘シルバードラゴン’の3品種は、無遮光・遮光区ともに大きく増加した。無遮光区で長径の増減が少なかった品種は、ヤブラン‘ロイヤルパープル’とオオバジヤノヒゲ‘ハクリュウコウ’で、減少が認められたのはヤブラン‘サマンサ’とジャノヒゲ‘ハクリュウ’であった(表1)。
- 2) 観賞期間が、調査期間の60%以上となった品種は、ヤブラン‘ビックブルー、ゴールドバンディッド、ライラックビューティー’、コヤブラン‘シルバードラゴン’、ノシラン在来種であった。
- 3) ヤブラン‘ビックブルー’の花梗数は、遮光区で顕著に多かった(図1)。
- 4) 以上の結果、ヤブラン‘ビックブルー’は、遮光条件に関わらず、定植後の被覆面積拡大が顕著で観賞期間が長いことから、様々な光環境が想定される都市部で利用できる緑化植物として有望である。また、コヤブラン‘シルバードラゴン’は、定植後の被覆面積拡大が極めて高く、ヤブラン‘ゴールドバンディッド、ライラックビューティ’は観賞期間が長い性質を有すことから、これら品種の活用も有望である。

表1 ヤブラン・ジャノヒゲ品種の生育と観賞特性

種名 品種名	処理区*1	被覆面の長径*2 %			葉長*3	花色	開花期	観賞期間*4 (%)	コメント
		翌年春	翌年秋	翌々年秋					
ヤブラン <i>Liriope muscari</i>									
アケボノ	無遮光区	122	128	120	28	紫ピンク	7月下～9月上	42	
	遮光区	102	108	110	23			33	
ビックブルー	無遮光区	128	180	180	50	淡紫	7月中～9月中	84	
	遮光区	128	156	158	37			77	
ゴールドバンディッド	無遮光区	94	132	140	32	紫ピンク	7月中～9月下	66	
	遮光区	94	110	138	23			76	
ライラックビューティー	無遮光区	122	156	166	31	鮮紫ピンク	7月中～9月上	61	
	遮光区	124	160	164	37			93	
モンローホワイト	無遮光区	114	144	148	32	黄白	8月中～9月下	53	
	遮光区	118	120	138	31			37	
ロイヤルパープル	無遮光区	106	104	108	25	鮮紫ピンク	8月下～9月下	27	密生しにくい。生育不良。 '05年冬季に半数枯死。
	遮光区	118	140	140	25			28	
サマンサ	無遮光区	104	82	76	9	(鮮紫ピンク)	(未開花)	0	密生しにくい。
	遮光区	130	100	100	17			0	
トラフ	無遮光区	124	136	156	28	紫ピンク	7月下～9月中	58	
	遮光区	122	122	130	31			52	
ファイヤブラン*5	無遮光区	—	—	—	86	浅紫	8月下～9月下	58	
コヤブラン <i>Liriope spicata</i>									
シルバードラゴン	無遮光区	150	228	264	29	淡紫ピンク	8月中～10月上	65	
	遮光区	92	224	336	32			64	
ノシラン <i>Ophiopogon jaburan</i>									
ビッタータス	無遮光区	70	116	112	23	白	8月上～9月下	49	耐寒性弱い。 無遮光区で1/3枯死
	遮光区	86	122	140	28			45	
在来種*5	無遮光区	—	—	—	40	白	7月～9月	64	
ジャノヒゲ <i>Ophiopogon japonicus</i>									
ハクリュウ	無遮光区	78	106	48	11	(未開花)	(未開花)	1	密生しにくい。
	遮光区	76	74	66	14			0	
リュウノヒゲ*5	無遮光区	—	—	—	50			84	花は目立たない。
タマリユウ*5	無遮光区	—	—	—	15		8月上～9月下	61	花は目立たない。
オオバジャノヒゲ <i>Ophiopogon japonicus</i>									
ハクリュウコウ	無遮光区	104	82	106	16	緑白	6月下～7月上 10月下	21	花は目立たない。
	遮光区	84	86	90	13			4	

*1: 遮光区は、遮光率58%の黒寒冷紗をトンネル被覆した。
 *2: 定植時(2004年6月2日)数値からの増加割合。翌年春=2005年5月17日, 翌年秋=11月14日, 翌々年春=2006年7月3日実施。
 *3: 2006年7月3日調査。
 *4: 調査期間2005年4月5日～2006年10月31日まで、計83週に占める、観賞度0～+1の週数割合。太字は60%以上を示す。
 *5: 2000年4月28日定植。被覆面の長径は未調査。

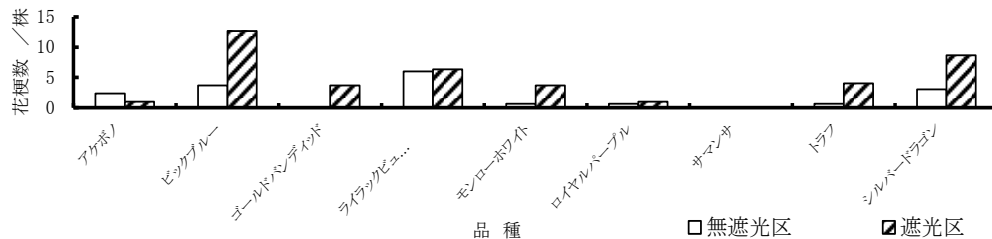


図1 ヤブラン品種の花梗数におよぼす遮光の影響